

世界臨床検査通信シリーズ-29

欧米で男性にもHPVワクチン接種が進む ～WHO世界免疫週間に思う～

国際臨床病理センター・自治医科大学名誉教授 河合 忠

ヒト乳頭腫ウイルス (human papilloma virus, HPV) には100種類以上の遺伝子型が存在し、そのうち約40型種が性的接触によってもっとも広く蔓延しているウイルスとのことである。英国からの報告によれば、5人に4人(約80%)が生涯を通じて1度はHPVのいずれかの型と接触する機会があるが、大部分は宿主の免疫力によって感染を免れていると推定されている。また、すべての癌の5.2%が高リスクHPV(発癌性、主として16,18型)と関連しており、子宮頸癌の99.7%の発症の原因であり、他の外性器部分や口腔咽頭を含む頭頸部癌にも関連することが判明している。その対策の一つとして、HPVワクチンが開発され、10年以上前から欧米では積極的に若年女性への接種が進められてきた。さらに、低リスクHPV(主として6,11型)は性器疣贅(genital warts)を発症することからワクチンの改良が進められてきた。米国では、女性に対しては2006年から、男性では2011年からHPVワクチン接種が積極的に推奨されている。

2017年11月、Annals of Internal Medicine誌に、口腔HPV感染の現状について驚くべき報告があった。米国NHANES*1の2011-2016年調査によると、米国在住成人(19-69歳)の調査結果、男性の11.5%、女性の3.2%がHPVに感染しており、全国的には男性1100万人、女性320万人と推計された。口腔HPV16型については、男性は女性の6倍も多く、全国推計では男性1700万人、女性27万人と推計された。臨床的に頭頸部癌が男性に多い実態を考慮し、男性へのワクチン接種の必要性を指摘した。同じ調査で、2011-2016年における9-26歳男性でのHPVワクチン接種率についての結果が、The Journal of Infectious Diseases誌の2018年3月23日電子版に報告された。すなわち、女性全体としては37.7%から45.7%に増加しているにも拘らず、思春期女性(9-17歳)では変化なく、男性では全体として7.8%から27.4%に増加し、すべての階層(年齢、人種、保険加盟の有無、貧困度、移民か否か)で増加していた。しかし、現在、男性全体に対するワクチン接種を推奨している国はないが、性的少数者(gender-and-sexual minority, GSM)へのワクチン接種については、米国、カナダ、オーストリア、オーストラリアにおいて推奨されている。さらに、2018年5月9日、英国のThe Cochrane Library*2はHPVワクチン接種が子宮頸癌の発症予防に有効であり、重大な副作用はないと発表した。このように、欧米では若い女性へのHPVワクチン接種が定着し、さらに男性への接種を進めることにより、男女ともに大部分の性器および口腔咽頭・頭頸部癌の発症予防に役立つことが期待されている。

WHOは4月24-30日をWorld Immunization Week 2018(世界免疫週間)としてワクチン接種の必要性を改めて訴えた。ワクチンは医学史上最高の発明品であり、人類史上の感染症対策として抗生剤の発見にも勝る大きな貢献をしてきた。*3ワクチンによる最善の感染症対策を推進するため、医療従事者、行政、立法府はもちろんのこと、マスコミ、一般市民、すべてがワクチンへの正しい理解をさらに深める努力に期待したい。

*1 NHANES: National Health and Nutrition Examination Survey(全国健康・栄養調査)

*2 The Cochrane Library(UK): Prophylactic vaccination against human papilloma viruses to prevent cervical cancer and its precursors. 9 May 2018. [EBMを推進する非営利民間団体による公開文書]

*3 山内一也・三瀬勝利: ワクチン学 岩波書店(東京)、2014